



ぼくの名前は「こまぼん」。小松島港湾・空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが目印。一般公募によって名前がつけられたんだ。

## —第21回— 徳島県沿岸での自然災害・海難事故

徳島県は瀬戸内海と太平洋に面しています。こうした地理的特徴は海上物流において大きな役割を果たす一方、鳴門海峡のような狭い海域での事故は、航路を遮断し他の地域にも大きな影響を及ぼしかねません。また、外洋の厳しい海象条件に直面しているため、強風や高波による被害、地震による津波など自然災害の危険がいっぱいです。

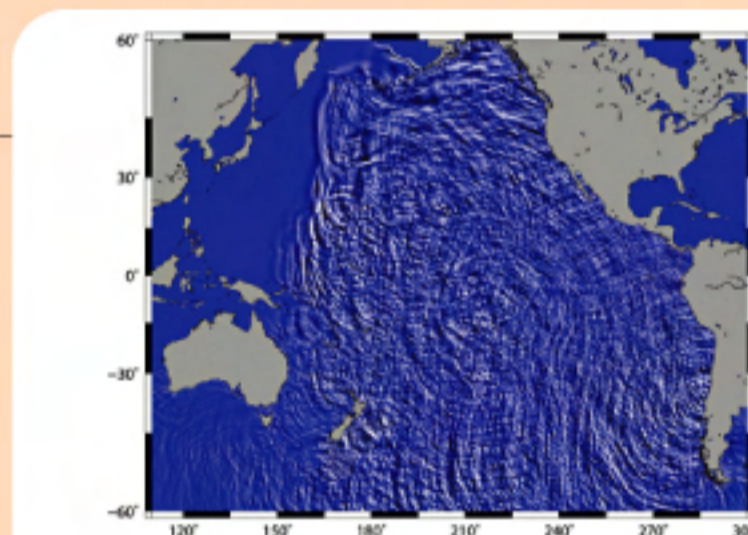
今回は、徳島県沿岸で最近発生した自然災害と海難事故について紹介します。

### ◆ 平成22年2月28日

#### チリ沖地震に伴う津波被害

日本時間27日15時34分、南米チリでM8.8の地震が発生しました。翌日28日、三陸地方沿岸部に大津波警報、太平洋沿岸全域に津波警報が発令されました。徳島県内に津波警報が発表されたのは、平成8年2月のニューギニア島沖地震以来14年ぶりです。県内では夕刻に小松島市と美波町の検潮所で、最大40cmの津波が観測されました。

フェリーの欠航など交通機関に乱れが生じた他、橋湾に面する国道の一部が冠水、また、海陽町の浅川港では養殖いけすが流されるなどの漁業被害が発生しました。



海洋開発研究機構ホームページより  
(津波の波動伝播シミュレーション 20時間後)

### ◆ 3月28日

#### 船舶衝突事故

午前0時10分過ぎ、大鳴門橋直下の鳴門海峡で、貨物船同士の衝突事故が発生しました。この海峡は航路幅が狭いことに加え、潮の流れが速く、航行船舶の多い海の要衝です。

衝突事故により貨物船(199トン)1隻が沈没し、大鳴門橋の南北25kmにわたり重油が流出しました。海上保安庁と連携し、小松島港湾・空港整備事務所も海面清掃船「みずき」、港湾業務艇「しまかぜ」を出動させ、事故海域で油の防除作業(放水・航行拡散)を実施しました。神戸や和歌山からも国土交通省の油回収船2隻が出動し、同海域で2日間に亘り防除作業を実施しました。



↑ 油の防除作業

### ◆ 4月27日～28日

#### 強風、高波

徳島県全域を襲った強風や高波で、鳴門市の里浦町大手海岸沖約2kmに設置されていた「鳴門わかめ」の養殖棚が流され、養殖産業に大きな被害が発生しました。被害を受けた養殖棚の大部分は大磯崎東南約6kmの海域まで流され、鳴門海峡を航行する船舶の障害になるとともに、潮流によりさらに流された場合、最悪、鳴門海峡を封鎖しなければならない事態が想定されました。

小松島港湾・空港整備事務所においても、徳島県や鳴門市等とともに、2次災害防止のため、流出した養殖棚の回収作業に協力しました。



↑ 流出したわかめの養殖棚

## 【小松島港湾・空港整備事務所ホームページ紹介】

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>

事故を防ぐために海にも交通ルールが決められています。船は通常、右側通行で道路の交通ルールとは少し違います。(ホームページ「なるほどみなと講座⑪」参照)

また、地震や津波に対する防災について、避難場所や避難経路など日頃から家族みんなで話し合っておくことも大切です。当所ホームページでは、「ハザードマップ」や「全国波浪観測情報」にアクセスできるバナーも掲載しております。ぜひ一度アクセスしてみてください。